6 月 6 日（土） 11：25～12：25　ポスター会場（展示ホール）【都道府県士会などの活動研究報告　啓発活動】

P2-0374

バリアフリー展における理学療法啓発事業としての取り組み

羽田　晋也[1,2]，柳澤　博志[1]，徳弘　宙士[1]，増井　健二[1]，桂　　大輔[1]，駒野　倫久[1]，
藤井　崇典[1]，安井　一敏[1]，坂口　史紘[1]，髙濵　　宏[1]，町田　恒一[1]，岩間　誠司[1]，山川　智之[1,3]

[1]公益社団法人　大阪府理学療法士会　社会局，[2]星ヶ丘医療センター，[3]南大阪病院

key words　**公益目的事業・リハビリテーション相談・介護技術**

【目的】
バリアフリー展は，高齢者・障がい者の快適な生活を提案する総合福祉展として西日本最大規模を誇る展示会であり，近年の来場者数は開催 3 日間で 9 万人を超えている。（公社）大阪府理学療法士会は，理学療法の啓発を目的として，平成 23 年度よりリハビリテーション相談のブース出展と理学療法士が実践で培った介護技術を伝達する研修会を開催している。過去 4 年間のブース来訪者および研修会参加者へのアンケートから若干の知見を得たので　検討を加え報告する。

【活動報告】
ブースでは 4 年間で 442 件の相談を受けた（アンケート回収率 35.1%；155 件）。相談内容は，リハビリテーションや介護に関する全般的なことから個別的な治療，自主練習，制度および仕組み等の多岐にわたるものであった。アンケートより，相談に対する説明が分かりやすく，役に立つ内容で 95% を超える方に満足いただけた。研修会は 4 年間で 1,183 名の参加があった（アンケート回収率 70.0%；828 件）。参加者は，介護福祉士，ケアマネージャー，ヘルパー，看護師，理学療法士，作業療法士など医療・福祉・介護に携わる専門家が 65% 以上を占めていた。アンケートより，理学療法士が実践で培った介護技術は，分かりやすい内容で 75% を超える方に満足いただけた。

【考察】
リハビリテーション相談は，高い満足度を得ることができたが，スタッフの目の前でアンケートを記入することが回収率低下をまねいた一因と考える。研修会は，医療・福祉・介護に携わる専門家の参加が多く，理学療法士が実践で培った介護技術が多職種から認知されていると同時に，高い次元の内容を求められていたことがブースに比べて満足度が低かったと推察する。

【結論】
今回の取り組みは，理学療法により府民の医療・福祉・介護および健康保持に寄与するものであり，重要な公益目的事業に位置づけられている。今後，このような公益性の高い事業が全国に広まることを期待する。